

「教室で昆虫採集 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(3) 奇妙な形・生態の幼虫

ヒメカツオブシムシは、カブトムシのメスを極小コピーしたような甲虫である。幼虫は、ハナムグリの幼虫のようなものを想像するが、本物は実に変なヤツである。ルーペで拡大して見ると、昆虫の幼虫というよりは、エビかシャコのような姿をしている。尾部の刷毛のような細毛が大きな特徴だ。これは何の役割があるのだろうか？



「ヒメカツオブシムシの幼虫」 C. Tanaka (水彩)

住んでいる場所は、もっと奇妙だ。とにかく教室の床板の隙間からよく見つかる。



ちょうど上の写真のような隙間だ。幅1mmほどの隙間が、黒っぽいものでパッキングされている。先の細いもので掘り出してみると、油脂質の塊が出てくる。その中に幼虫が潜んでいるのだ。

(4) 楊枝で「昆虫採集」

3年生の理科の時間に、ヒメカツオブシムシの話をしたら、子どもたちは「驚き」と「興味」を同時に示していた。

「えー、床にそんなヤツがいるのー？」

「ちょっとキモい！でも見てみたい！」

「先生、今探していいですか？」



さっそく子どもたちに楊枝を1本ずつ配布して、教室での「昆虫採集」が始まった。

「こんな隙間に、虫とかいるのかなー？」

「何か、きたないゴミしか出てこない」



最初は半信半疑で作業を始めていた。子どもたちが言うように、掘っても掘っても、黒くて湿っぽいゴミしか出てこない。あれ？これは無理なのかな？

「ねえ先生、いないよ、虫なんか」

「太陽の勉強の続きがしたい」・・・マズい！